

茶樹防除暦における基本防除の見直し

～効果の上がる防除を目指して～

近年、二番茶生育期にチャノミドリヒメヨコバイの発生が多いと言われており、その発生状況、二番茶への影響について調査をしました。その結果、これまでの防除暦の基本防除時期は二番茶摘採後となっていたのですが、二番茶生育期の方が発生は多く、防除しない場合、収量への影響が大きいため、基本防除に追加するよう見直しを図りました。

1. 背景と目的

奈良県農業協同組合、奈良県農産物生産・流通部会茶部会は生産者向けに茶樹病虫害防除暦を作成しており、年に1度、時期毎の使用薬剤を中心に見直しを図っています。

ここ数年、6月から7月にかけての二番茶生育期に、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生が多く、ひどいときには二番茶新芽が伸びないとの声が生産者から聞かれるようになりました。防除暦ではこれらの害虫の基本防除は7月下旬～9月下旬までの二番茶摘採後から秋芽伸育期までとなっています。

そこで、適切な防除時期の検証と収量への影響を確認するため、チャノミドリヒメヨコバイの年間発生状況と二番茶収量に及ぼす影響について、防除がある場合とない場合で調査を行いました。

2. 研究成果の概要

大和茶研究センター内でチャノミドリヒメヨコバイ虫数を約1週間ごとに調査した結果、秋

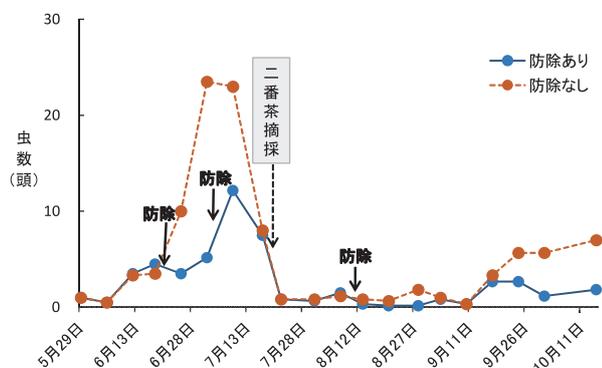


図1 チャノミドリヒメヨコバイの発生状況
注) 1区4か所のたたき落とし法による

よりも6月から7月にかけての二番茶生育期に多くなることを確認しました(図1)。そして防除をしない場合、二番茶新芽の伸育が悪く、収量は減少しました(図2、3)。また、被害度が大きいほど収量は少なくなる傾向であることも確認しました(データ省略)。



図2 防除の有無による二番茶新芽
(左：防除あり、右：防除なし)

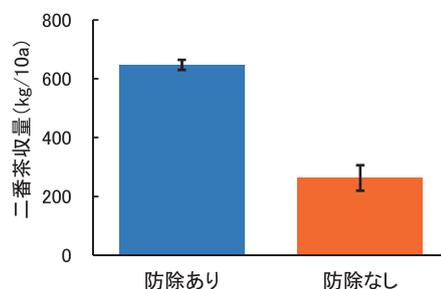


図3 防除の有無と二番茶収量
注) 図中バーは標準誤差

このことから、二番茶生育期の防除も必要であるということがわかり、基本防除に追加しました。

3. 実用化に向けた対応

今回の試験により防除暦を見直し、実態に合った防除方法を提案することができました。今後は流通ニーズが高い輸出向けの防除暦など、大和茶生産の指針となる技術を生産者に提供していきたいと考えています。

(大和茶研究センター 谷河明日香)